

業種	製造・サービス業
活用分野	人の捜索・見守りサービス
テクノロジー	920MHz帯特定小電力無線、LTE/3G、クラウド

見守り&人命救助の新サービス 920MHz帯の活用で位置精度上げる

創業から50年を数える愛知県半田市の加藤電機は、創業者の父を継いだ2代目の加藤学社長が、従来のFA関連からカーセキュリティ分野へと事業を大きく転換し、同業界のトップシェアを獲得するまでに成長させた。

さらなる飛躍に向けて2015年4月から提供開始したものが、920MHz帯特定小電力無線を用いて人の捜索や見守りを実現する日本初の「SANフラワー見守りサービス」である。

広域をカバーするアンテナと携帯型レーダーの2段階構えて捜索

人命救助に結びつくシステムを開発しようと決意したのは、建物倒壊や火災で多くの犠牲者を出した阪神淡路大震災がきっかけだった。

しかし、どんな条件下でも捜索者の位置を特定できる手段がすぐには見つからなかった。GPSでは屋内の位置把握が困難だった。生体反応を利用する仕組みも考案したが、近くま

で行かないと反応を捕捉できないことが課題となった。

そうした折り、2012年に電波法改正で920MHz帯域の特定小電力機器の出力が2倍になった。「距離や到達性、速度など非常に優れた特性は、求めていた最適解」(加藤社長)だった。

約3年をかけて作り上げた「SANフラワー見守りサービス」は、見守り対象者が持つ「SANタグ」の位置を、①街中などに設置した「SANアンテナ」で広域の位置情報(所在エリア)を把握し、②携帯型端末「SANレーダー」でエリア内を捜索することにより屋内外を問わず所在場所を特定するという2段階構えの仕組みとなっている。

SANアンテナでキャッチしたSANタグの位置情報は、KDDIのLTE/3G網および閉域網を通じてクラウド上(KDDIのクラウドプラットフォームサービスを採用)に保管される。その情報をWebで確認し、エリア内でSANレーダーを使い捜索すれ



加藤電機 代表取締役社長 加藤学氏
手にしているのは「SANタグ」(左)と現場捜索時に用いる「SANレーダー」

ば、誤差50cm程度でSANタグ所持者にたどり着ける。

手のひらサイズのSANタグは、2時間の充電で約1.5カ月使用が可能。加藤社長は、「さらなる小型化・堅牢化を進めるとともに、身に付けられるストラップやチャームへの組み込み、シューズメーカーと共同で靴への内蔵にも取り組んでいます」と説明する。

高齢者等徘徊捜索模擬訓練で各自治体から高い評価

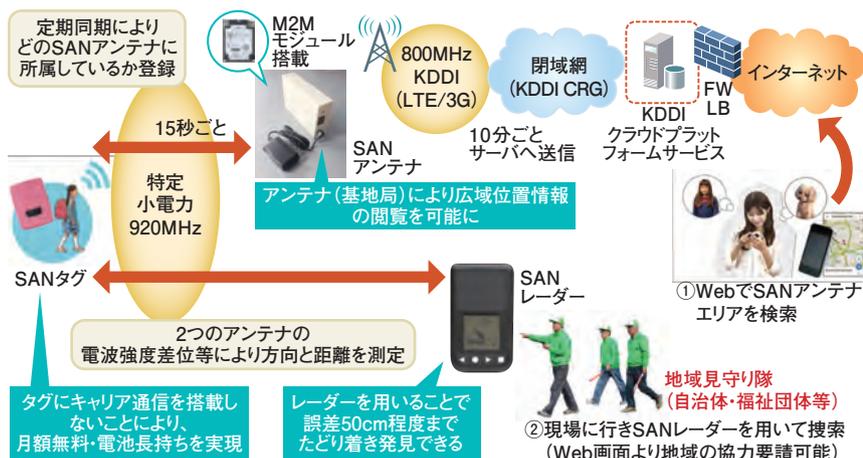
2015年は自治体の高齢介護課など徘徊者対策の模擬試験を推進し、利用者からも高評価を獲得した。

今春以降はビジネスとしての軌道に乗せるべく、介護分野だけでなく児童の見守り、カーセキュリティと組み合わせた交通安全用途などのサービスも展開していく。

機能面では、小学校での児童見守りの用途を意識して特定のエリアに到着した際のメール通知を提供するなど、付加価値化を進めていく。

さらに加藤社長は、「全国どこでもサービスを利用できるように、SANアンテナの設置運営に協力してくれるサポーター企業の募集にも注力したい」と話している。

図 「SANフラワー見守りサービス」の概要



Profile

加藤電機株式会社 http://www.kato-denki.com/	本社所在地 愛知県半田市花園町6-28-10	事業内容 カーセキュリティシステムの企画・開発・製造・販売、位置検索システムの開発・設計・販売など
	設立 1973年7月2日(創業1965年11月8日)	